

別表1

採用場所	北海道区水産研究所 さけます資源研究部 資源保全グループ 北海道札幌市豊平区中の島2条2丁目4-1
研究課題名	「複数の再生産様式を持つさけます資源の持続的管理方策の開発」 1)野生さけます個体群の再生産効果の推定 2)ふ化場産および野生さけます個体群動態の分析 3)ふ化場産および野生さけます個体群間の相互作用の検討 4)ふ化場産および野生さけます個体群双方の持続性を担保した資源管理方策の検討
研究業務内容	<p>さけます類では古くから人工ふ化放流による資源増殖が営まれている。近年、我が国では、人工ふ化放流に強く依存しているサケや自然産卵が比較的多いと言われるカラフトマス資源水準はともに減少傾向であり、河川環境収容力が資源水準に強く影響するサクラマス資源水準も低迷している。我が国のさけます類増殖事業では、自然環境に放流し成長したふ化場産魚のほとんどを漁獲・回収するというマリランピング型増殖事業が主体であり、ふ化場産魚の一部が親魚となり自然産卵により資源再生産に寄与する効果は考慮されてこなかった。しかし、近年ではさけます類において人工種苗放流に伴う遺伝的劣化が指摘されるとともに、自然産卵による資源水準への寄与が評価されている。これらを背景に、さけます資源の持続可能性を担保した増殖技術や管理方策が求められている。</p> <p>このことから、複数の再生産様式を持つさけます資源の持続的管理方策を開発するため、次に掲げる研究開発を行う。</p> <p>①不足している野生さけます個体群の再生産実態や幼稚魚期の減耗実態を野外調査により把握し野生さけます個体群の再生産効果を推定する。</p> <p>②上記①とともに、過去に蓄積された漁業・増殖・生態調査データを用いてふ化場産および野生さけます個体群動態を分析する。</p> <p>③ふ化場産および野生産魚の個体群間の相互作用を考慮した資源動態のモデル化をする。</p> <p>④上記③のモデルを用いて、ふ化場産および野生産魚の個体群双方の持続性を担保した包括的なさけます類の資源管理方策に関する検討を行う。</p>
研究業務内容に関する問合せ先	北海道区水産研究所 業務推進部長 島田裕之 TEL:011-822-2185